

## 試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：九十九里海域におけるサトウガイの分布の特徴			
<p>[要約] 九十九里海域のサトウガイ成貝・稚貝は水深約4-20 mに出現し、稚貝は大きな移動を行わずに成長すると考えられた。成貝が出現した底質の中央粒径値は0.108-0.138mmで、波浪の影響を受けにくく海底地形の変化が少ない場所が本種の生息に適していると考えられた。</p>			
キーワード サトウガイ、水深、成貝、稚貝、底質粒径			
実施機関名	主 査 水産総合研究センター 資源研究室	協力機関	—
実施期間	1989年度～2018年度		

### [目的及び背景]

九十九里海域におけるサトウガイは、同海域で操業する貝桁網漁業により1959年に7,470トンの漁獲量を記録したが、1982～1984年に起きた大量へい死により資源が急激に減少し、2011年以降は、商業レベルでの漁獲は行われていない。サトウガイが再び商業レベルで漁獲されるようになった場合の資源管理の一助とするため、1989年以降の分布調査の結果から、同海域における分布密度、分布水深、底質との関係について検討した。

### [成果内容]

- 1 成貝・稚貝ともに水深約4-20 mに出現し、成貝は12-17 mおよび6-7m、稚貝は10-17 mで比較的高い分布密度を示した（図1）。波浪の影響を受けにくく、海底地形の変化が少ない水深帯で分布密度が高くなる傾向が認められた。
- 2 成貝と稚貝の分布域は同一で（図1）、稚貝は大きな移動を行わずに成長するものと考えられた。
- 3 成貝が出現した調査点の底質の中央粒径値は0.108-0.138mmであった（図2）。同海域に生息するチョウセンハマグリと比較すると、粒径の小さい場所に出現した。
- 4 九十九里海域の北部では、資源水準は年代により大きく変動するが、南部では安定した資源が存在し、商業レベルでの漁獲につながる水準に達している可能性が認められた。
- 5 今後、商業レベルでの操業を行うに当たり、資源を維持していくためには稚貝を保護することが重要であり、成貝と稚貝の分布域が同一なことから、貝桁網漁具の目合による選択的な漁獲を行うことが有効と考えられた。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 九十九里海域、貝桁網漁業者

[行政上の措置] なし

[普及状況] なし

[成果の概要]

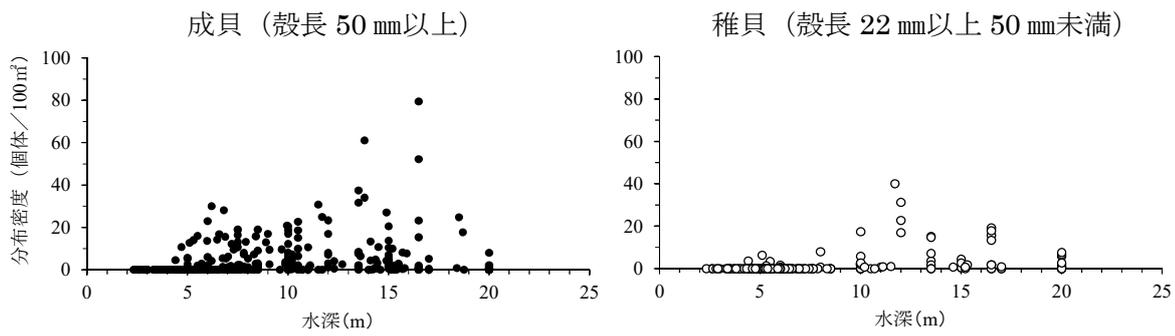


図1 水深と成貝・稚貝の分布密度の関係

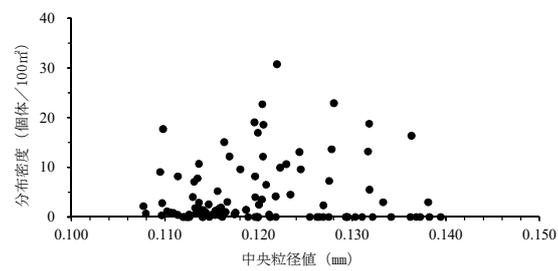


図2 底質の中央粒径値と成貝の分布密度

[発表及び関連文献]

九十九里海域におけるサトウガイの分布の特徴、千葉水総研報、No. 14、2021年

[その他] なし